北海 校友だより

第５６号
2015年11月20日

北　海　校　校　友　会
（事務局 北海高等学校 内）
〒062-8601
札幌市豊平区旭町４丁目１－41
ＴＥＬ０１１－８４１－１１６１㈹
ＦＡＸ０１１－８２４－５５１９
編集責任者　　松　岡　樹　雄

北海校校友会HPアドレス
http://www.hokkaikouyu.com

〈ご挨拶〉

会長の就任にあたって

北海校校友会　第十代会長（高校26期）　**金　井　重　雄**

私は、去る平成27年５月29日北海校校友会総会にて承認をいただき、第10代会長に就任いたしました高校卒26期の金井です。当日は、会員の皆様方のご協力により平成27年度の「校友の集い」が盛会に開催されました事、心より感謝と御礼を申し上げます。創立１３０周年という節目の年に「温故知新・更なる頂を目指して」をテーマに、幹事一丸となった強い強い想いが伝えられた大変意味深い校友の集いでした。２年前から準備を進めていただいた高校35期　荻原孝寛実行委員長を始め、同期幹事の皆様、大変お疲れ様でした。そのご尽力に敬意を表し厚く感謝を申し上げます。尚、遠藤前会長におかれましては、会則改正をはじめ５年間の責務を務め、多大なる功績を納められました事、心より感謝を申し上げたいと思います。

今年は、私にとっていろいろな節目の年でありまして、第一に、母校、北海の設立１３０年で10代目の会長、私自身、昭和30年生まれの60歳の還暦、我が社の創業35年ならびに商工会議所加盟30周年、そして大きな事では第二次世界大戦終戦70年という…そのような多くの節目の年に会長をおおせつかり、何かの運命的なものを感じております。

この日を迎え、自分の胸の内は一寸の曇りもございません。微力ではございますが遠藤前会長はじめ、先人の意を引き継ぎまして、伝統を重んじ、「北海らしい校友会」「本校を支えられる校友会」「永久に不滅な校友会」を目指し、新役員が一丸となり邁進してまいる所存でございます。

むすびになりますが、どうか皆様、旧を倍にしてのご支援・ご協力をいただけます事をお願い申し上げまして、北海校校友会第10代会長就任のあいさつとさせていただきます。

〈校友会発展に向けた会長としての方針〉

○健全な運営・維持
　…会費等のあり方

○会員の確立
　…同期会および各支部の活性化

○校友会組織の拡大
　…運動部・文化部・ＯＢ・ＯＧの部会

※（仮称）北海歴史記念館の建設（長期計画）

【我　心】

獅子となり
虎となりても
北海の
益荒男ぶりも
星のまにまに

語り継ぐべきこと
―戦後70年に寄せて

校長　山崎省一

校友の皆様には、常日頃、さまざまな形で北海高校を支えていただき、心より感謝申し上げます。とりわけ今年は6月に開催した「130周年記念展」や夏の甲子園大会出場に際しては大きなお力添えをいただきました。厚く御礼申し上げます。また、金井新会長を中心に新しい体制がスタートした校友会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

さて、今年は戦後70年、また高校野球100年ということで、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどでも特集記事・番組が数多く制作され、本校が取材を受けることも度々ありました。部長・監督として38年間にわたって北海野球部を指導した飛沢栄三先生（1903～67）は、夏18回、春8回甲子園に出場した名監督であり、北海道のチームが全国で勝つための練習方法や戦略を考えて「北海道高校野球の父」と称される存在でした。飛沢先生の業績が再び大きく取り上げられたことは大変喜ばしいことでした。

さらに野球関係では、「特攻隊員となった豪腕投手」として坪谷幸一さんがさまざまなメディアで取り上げられました。坪谷さんは飛沢先生に見出されて北海のエースとなり甲子園大会に出場、法政大学進学後も野球を続けましたが学徒出陣で特攻隊員となり出撃準備中に不慮の事故で亡くなりました。出撃が決まった時に飛沢先生に宛てた手紙が、「遺書」として本校に残されています。終戦から43年を経て、飛沢先生の遺品が整理された際に見つかったものです。坪谷さんの手紙は、戦争の悲惨さを今なお静かに語りかけています。

坪谷さんと共に1940年に甲子園に出場した野球部レギュラー9人のうち、4人が戦死もしくは戦病死しています。この夏の甲子園で北海野球部は開幕試合を戦いましたが、それは坪谷さんの時以来のことでした。

飛沢栄三先生と同じく、北海中学18期（大正12年3月卒業）の卒業生に福地靖さんという方がいました。同じ18期卒業の作家・島木健作（本名・朝倉菊雄）に大きな影響を与えた人物といわれています。福地さんは北海中学卒業後、飛沢先生と同じく早稲田に進学しましたが、その後、京城医科大学（現在のソウル大学医学部）に学び、医師として満州に渡って開拓団の人々の生活を支えました。終戦直前、ソビエト軍が満州に侵攻し、開拓団の人々の逃避行や集団自決という悲劇が起きました。福地さんは過酷な状況の中で、冷静に状況を判断し、集団自決しようとする人々を生き延びるよう説得して多くの人々の命を救ったということです。福地さん自身は銃殺？されて日本に帰ることはありませんでしたが、福地さんの人間的な行動は特筆すべきものとしてNHKの番組で取り上げられました。福地さんは飛沢先生と同じく古平の出身で、旧姓は近藤といい、実家は医院でした。現在「北海道開拓の村」の旧北海中学校から程近いところにある旧近藤医院こそ、その実家だということもNHKの取材の過程でわかりました。戦後70年を経て、歴史の中から蘇ってきた福地さんの生き方や精神に深い感慨を覚えます。

9月～10月、北海道立近代美術館において、日韓国交正常化50周年記念事業として『日韓近代美術家のまなざし』と題した展覧会が開催されました。この展覧会でスポットが当てられた画家に佐藤九二男さん（1897～1945）がいます。佐藤さんは北海中学11期（大正5年3月卒業）。佐藤さんは1914年（大正3年）に現在も続く美術部「団栗会」を創設した方です。東京美術学校（現東京芸術大学）に学んだ後、朝鮮に渡り、美術教師として京城の第二高等普通学校に赴任、のちに韓国美術界を牽引することになる幾多の俊秀を育てたということです。重要な役割を果たしながらも、長い間、美術史の中で忘れられた存在となっていた佐藤さんの功績が再評価されたことに、新鮮な驚きを禁じえませんでした。

北海130年の歴史の中には、語り継ぐべきことがまだまだあるのだということを、あらためて強く感じる年となりました。

末筆ながら、校友の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

退任の挨拶

北海校校友会
第９代会長
遠藤　安知
（中44期）

去る５月末の北海校校友会、27年度総会を機会とし、５年間余に亘っての第９代校友会会長としての任務を終えた次第です。

在任中は校長先生をはじめ教職員の皆様、校友会担当事務職員、校友会役員、幹事諸氏と校友の皆様の温かいご厚誼ご支援を頂き誠に有難うございました。感謝とお礼の気持を早々に告げずに時を過ごし、深くお詫びをいたします。

この在任の５年間を顧みると、母校北海校は30年前の１９８５年に〝創立１００年〟を迎え、学校法人北海学園の礎をより高揚し、今も変わらぬ歴史と伝統を表したことは承知と存じます。「質実剛健・百折不撓」の精神を培い、「文武両道」の練磨は北海スピリッツであり一貫した教育理念であります。今年はその１００年を経てより30年が過ぎ、１３０年の節目を迎えた年でもあります。

７代目会長倭昭三様（中44期）、８代目会長福屋修三様（高７期）が校友の皆様と共に時の流れに応じた多くの課題に解決を懸けて努力をなされた功績を背にいたし、９代目校友会会長を拝命いたし、在任５年余に亘っての歳月を経た次第です。多極化する時の流れに応ずる校友会であるためには、実践的に働ける役員や幹事や担当者の理解と力添えが必要になりますが、本当に好く力添えを頂き新しい方向に進むことが出来て感動した次第です。誠に有難うございました。

校友会会則の検討から組織運営の合理化を具体的に目指しての常置部門の実践の一端も確立できたことは今後の活動に期待できる次第です。又毎年の〝校友の集い〟を見る限り、同期、同舟の校友の力であり、その結集は他校の同窓会には見ることない力です。

吾が北海校校友会は日頃から教育実践の先生方の力と、その力に親密に迫る校友会の繋がる実践があって成果を上げていることに頭がさがります。私は在任の５年間に北海校の歴史と伝統を守り続けようとする先輩や後輩の力に慶賀の誠を身に覚えた次第です。

終りに学んだ母校・北海校・北海校校友会の発展と皆様の更なるご健勝の程を祈念いたし退任のご挨拶といたします。

平成27年度北海校校友会総会

平成27年度北海校校友会総会は、去る５月29日（金）ロイトン札幌を会場に行われた。

髙島篤総務部長（高校25期）の司会で進行され、校友物故者に哀悼の意を込めて黙祷をささげた後、遠藤安知会長（中学44期）より、本校友会の更なる躍進を遂げてきたこと会長を辞任する旨の挨拶が行われた。

続いて、名誉会長である山崎省一北海高等学校長から、母校の近況についての挨拶が行われた。

議事は、遠藤安知会長を議長に選出し議案の報告に入った。

秋山秀司事務局長（高校35期）から平成26年度活動報告・決算報告、続いて平成27年度事業計画・予算について上程があり出席者全員の同意を得た。

その後、「集い」で行うこの春「叙勲」を受けられた元北海高等学校長杉本和紀様に表彰状を贈呈すること、長年にわたり校友会支部の発展にご尽力いただいた前釧根支部長　寺井二郎様（中学40期）、前西日本支部長　佐々木哲明様（中学43期）、前道南支部長　滝本洋一様（高校４期）の３名に感謝状を授与することの報告があり、グッズ販売案内と財政検討特別部会を発足することの報告もあった。

続いて、本年度役員改選期のため、会長選考特別部会会議を経て３月19日の第２回幹事会で新会長として金井重雄氏（高校26期）が承認され新役員の紹介があり総会は閉会された。

平成27年度北海校校友会役員名簿

（平成27年７月15日現在）

名誉顧問　和紀（元校長）
杉本　北明　邦雄（前校長）

顧　問　倭　昭三（中41期）
遠藤　安知（中44期）

名誉会長
山崎　省一（学校長）

会　長
金井　重雄（高26期）

副会長
二瓶　雅康（高25期）
野村　英市（高35期）
野田　郁夫（教　頭）

事務局長
秋山　秀司（高35期）

事務局次長
楠　文彦（高25期）

監　査
金山　渉（高37期）
龍田　浩一（高58期）

常置部

奨学支援部長
二瓶　雅康（高25期）

財政部長
杉下　道昭（高12期）

広報・名簿部長
松岡　樹雄（高29期）

総務部長
二瓶　雅康（高25期）

組織強化部長
野村　英市（高35期）

平成27年校友会役員新旧名簿一覧

会　長
遠藤　安知（中44期）
辞任　平成27年５月29日

金井　重雄（高26期）
就任　平成27年５月29日

顧　問
遠藤　安知（中44期）
就任　平成27年５月29日

副会長
三上　恒（高８期）
辞任　平成27年５月29日
山口　富雄（高13期）
辞任　平成27年５月29日
二瓶　雅康（高25期）
就任　平成27年５月29日
野村　英市（高35期）
就任　平成27年５月29日

広報・名簿部長
長谷川純一（高17期）
辞任　平成27年５月29日
松岡　樹雄（高29期）
就任　平成27年５月29日

組織強化部長
金井　重雄（高26期）
辞任　平成27年５月29日
野村　英市（高35期）
就任　平成27年５月29日

130周年北海校校友の集いを振り返って

高校35期実行委員長
萩原孝寛

母校創立130周年という大きな節目を迎えた本年5月、我々高校35期は、「温故知新・更なる頂を目指して」というテーマを掲げ、校友の集いを開催させて頂きました。

33期の先輩の皆様が128周年校友の集いの準備を始められた頃、我々35期も、後3年もすれば我々が幹事期になると強烈に意識し始めました。

ついにその時がやってきたのです。それまで年に何回か、すすきのでしか会っていなかった同級生達と、月に1度土曜日の日中、後の校友の集いに向けて集まるようになったのです。

当初は右も左も、何をどうすればいいのかも全く分からない様な状態でした。しかも我々35期の校友会開催年は、創立130周年という大きな節目となる年でもあります。そこで、まずテーマを考える事にしました。

130周年を迎える壮大なる北海校の伝統と歴史、それが脈々と引き継がれている現在、そして未来へ。故きを温ねて新しきを知る。まさに「温故知新」。そして更なる頂を目指して。このテーマの下、校友の集いに向けての試行錯誤の日々が始まったのです。

130周年のお祝いに相応しい校友の集いになるように、何をすべきか、どのような内容にすれば皆様に喜んで頂けるのか、数々の意見をぶつけ合い、何度も何度も話し合っていきました。

度重なる話し合いの中で、余興の一つが餅つきに決まりました。北海校の歴史を築いてこられました、諸先輩の皆様から受け継がれている北海魂のイメージを、餅つきの杵のリレーで表現したのです。

当日は、「よいしょ、よいしょ」の大きな掛け声の中、大先輩の皆様から順々に杵が引き継がれ、私、35期萩原の所へ渡ってきました。そして最後に来年度の実行委員長である伊藤　健一君へ杵というバトンを渡しました。あの一体感。本当に感激致しました。そしてやはり、北海校は最高だと思いました。

餅つきの次は、北海校校友の集いに欠かす事の出来ない応援団の演武です。

皆、仕事が忙しく中々練習も出来ませんでしたが、昨年の34期の先輩の皆様の素晴らしかった演武を、DVDを何度も見直し練習致しました。

応援歌ナンバー1、ナンバー3、そして空手拍手の順に演じ、やはり一番の盛上がりを感じました。

この素晴らしい校友の集いを、これからも後輩の皆様の手によって、より一層盛り上げて頂きたいと思います。

来年の131周年校友の集いも実行委員長の、伊藤　健一君を中心に開催に向けて準備を進めております。

皆様方におかれましては、本年同様に高校36期の皆さんにご尽力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが本年度の校友の集いに対し、諸先輩並びに後輩の皆様、北海校校友会事務局、すべての北海校関係者の皆様には多大なるご協力やご指導を頂きまして、誠に有難う御座いました。

高校35期一同、心より感謝申し上げます。

「平成28年度校友の集い」のお誘い

伝統継承 空光明のおとずれよ。

高校36期実行委員長 伊藤健一

本年度、校友会の新会長に就任されました金井会長様より、来年度の当番期として委属状を頂きました。

来年、創立１３１周年になる北海は、今もスポーツ、文科系ともに活躍していることは誇りに感じております。

また、先輩後輩がこれだけつながりがある学校は他に類をみないところです。

我々、36期のテーマは、伝統継承とさせて頂きました。諸先輩方、我々より若い後輩、皆さんそれぞれの時代を走ってきたと思いますが、質実剛健、百折不撓の精神は今も変わらず脈々と我々の中に刻み込まれています。

伝統をかみしめて、我々36期は一丸となって記憶に残る校友会を目指して微力ではございますが、準備を進めていく所存です。

来年度の校友会には、一人でも多くのご参加、ご協賛を賜わりますよう宜しくお願い申し上げます。

平成28年度
北海校校友会
総会・校友の集い
日程等について

日　時	平成28年 ５月27日（金）
受　付	午後５時
総　会	午後６時
校友の集い	午後６時30分
会　場	札幌パークホテル
住　所	札幌市中央区 南10条西３丁目
電　話	011－511－3131

二〇一五年度進路決定状況

進路指導部長 秋山秀司

２０１５年度入試は、数学と理科が新しい教育課程に対応した出題になった。特に大学入試センター試験で試験方式が大きく変更された。毎年、特進コースの生徒を中心に一定の浪人生が出ている本校だが、旧課程履修者のための経過措置があるとはいえ、彼らにとっては内心さまざまな不安をもっての入試になったと思われる。また、現役生にとっても、私大の一般入試の一部に旧課程からの出題もあり、気持ちの上ではすっきりしたものではなかった。

また、センター試験の理科において、当初発表された平均点の科目間の差が20点を超えたため得点調整も行われた。平均点は圧縮されたが、これら教科・科目の難易度の変化に大きな差が出たことは出願に大きな影響を与えたといえる。国語は、昨年まで二年連続で平均点が非常に低かったが、今年度は昨年度より２０．５５点も高かった。

一方、新課程の数学は、非常に難しい問題が出題され、センター試験史上最低の平均点となった。国語も数学もほぼ全員が受験する主要科目であるため、本校の生徒を含む多くの受験生は難しい判断を迫られたといえる。しかし、本校の生徒は、こういったセンター試験の結果だけで一喜一憂するのではなく、これまで積み上げてきた実力を信じ、多くの生徒が第一志望届（二年生12月提出）で宣言している通りに受験してくれたと思っている。一人ひとりが最良の結果を出せた訳ではなかったが、第一志望校への出願を断念したり、安易に数学が不要の大学に変更するなどせず、現実を受け止め、一つの結果を出した上で進学をしたり、合格をしても浪人を選択する者がほとんどであったといえる。

２０１５年度（高校67期生）の合格実績は次の通り。なお、看護・医療系への進学実績は近年大変高い。看護系大学への進学実績は、今年度道内５位（道新受験情報誌掲載）

【道内国公立大学】 57名
北海道大学医学部医学科１名、北海道大学４名、小樽商科大学５名、帯広畜産大学２名、北海道教育大学札幌校３名、北海道教育大学旭川校１名、北海道教育大学函館校２名、北海道教育大学岩見沢校２名、室蘭工業大学８名、北見工業大学１名、札幌医科大学医学部医学科１名、札幌医科大学１名、札幌市立大学３名、公立はこだて未来大学３名、釧路公立大学２名、名寄市立大学３名

【道外】
弘前大学４名、宮城教育大学１名、岩手大学１名、新潟大学１名、信州大学１名、筑波大学１名、横浜国立大学１名、名古屋工業大学１名、岩手県立大学１名、高崎経済大学１名、高知県立大学１名、防衛医科大学校１名

【道内私立大学】 336名
札幌大学16名、札幌学院大学８名、札幌国際大学５名、天使大学７名、藤女子大学18名、北翔大学16名、北星学園大学27名、北海学園大学139名、北海商科大学６名、北海道医療大学19名、北海道科学大学25名、北海道情報大学２名、北海道文教大学、17名、北海道薬科大学３名、酪農学園大学獣医学部１名、酪農学園大学３名、千歳科学技術大学４名、日本赤十字北海道看護大学１名、札幌大谷大学２名、札幌保健医療大学６名、日本医療大学９名、道都大学２名、旭川大学１名

【道外私立大学】 106名
奥羽大学１名、桜美林大学２名、岡山商科大学１名、神奈川大学３名、関西大学１名、関東学院大

学1名、共立女子大学1名、京都外国語大学1名、京都造形芸術大学1名、慶應義塾大学1名、國學院大學1名、国際武道大学1名、国士舘大学2名、駒澤大学2名、淑徳大学1名、成城大学3名、専修大学2名、仙台大学3名、創価大学4名、拓殖大学2名、多摩美術大学1名、中央大学3名、帝京大学3名、帝京平成大学1名、天理大学1名、桐蔭横浜大学1名、同志社大学1名、東京家政学院大学1名、東京工科大学2名、東京国際大学1名、東京農業大学1名、東京薬科大学1名、東海大学5名、東北芸術工科大学1名、東洋大学社会学部9名、徳島文理大学2名、獨協大学2名、南山大学1名、日本大学、2名、日本映画大学1名、日本体育大学1名、福井工業大学2名、富士大学2名、法政大学8名、明星大学2名、武蔵野美術大学3名、明治大学1名、明治学院大学2名、山梨学院大学1名、立教大学2名、立命館大学4名、龍谷大学1名、流通経済大学1名

【短期大学】　25名

名寄市立短期大学1名、札幌大学短期大学部2名、北星学園大学短期大学部8名、北翔大学短期大学部1名、北海道武蔵女子短期大学6名、札幌国際大学短期大学部4名、光塩学園女子短期大学3名、札幌大谷短期大学1名、北海道國學院短期大学1名、埼玉女子短期大学1名、大阪成蹊短期大学1名

【専門学校】　68名

国立病院機構、北海道医療センター看護学校6名、北海道立江差高等看護学院1名、岩見沢市立高等看護学院2名、勤医協札幌看護学校3名、北海道医薬専門学校2名、北海道看護専門学校1名、日本福祉学院看護・診療放射線学院1名、函館看護専門学校1名、中村記念病院附属看護学校1名、札幌医療リハビリ専門学校1名、札幌リハビリテーション専門学校1名、北海道リハビリテーション大学校4名、札幌医学技術福祉歯科専門学校5名、北海道ハイテクノロジー専門学校7名、札幌歯科医師会立札幌歯科学院1名、北海道メディカルスポーツ専門学校5名、北海道福祉大学校1名、北海道体育大学校1名、経専北海道保育専門学校1名、経専北海道観光専門学校1名、光塩学園調理製菓専門学校2名、ベルエポック製菓調理専門学校1名、ベルエポック美容専門学校2名、札幌ブライダル製菓専門学校2名、北海道情報専門学校1名、日本工学院専門学校1名、大原法律公務員専門学校2名、総合学園ヒューマンアカデミー2名、ESP、MI、JAPAN札幌校1名、日本外国語専門学校2名、デジタルアーツ東京1名、大阪EOC海洋動物専門学校1名、ELSハワイホノルルランゲージセンター1名、日本聖書学院1名、JAカレッジ1名

【就職（公務）】　8名

北海道職員（教育行政）2名、北海道警察3名、航空自衛隊1名、陸上自衛隊2名

【就職（民間）】　4名

埼玉西武ライオンズ（プロ野球）1名、マックスバリュー北海道2名、十勝豆類加工有限会社1名

平成27年度 全国大会出場結果報告

硬式野球部

「すべては100年の夏のために」

今年は夏の甲子園に4年ぶり36回目の出場を果たしました。昨年の秋季北海道大会準優勝に始まり、今年度の春季北海道大会と夏の南北海道大会を44年ぶりの連続優勝で甲子園出場と北海高校野球部にとって忘れ難い1年となりました。また今大会は高校野球が始まって100年という記念すべき大会でもありました。北海道の高校野球をけん引してきた北海高校野球部がこの記念すべき大会に出場することができたことを大変嬉しく思っております。甲子園出場に際しまして多くの方々から温かい激励のお言葉、そして物心両面での多大なるご支援を賜りましたことに対しまして、この場をお借りしてあらためて心より厚く感謝申し上げます。

昨年のセンバツ甲子園のかかった秋季全道大会決勝戦、対東海大四は2—3の1点差負け。これがこのチームの出発点であり、この負けが甲子園へとつながったのではないかと私は思っています。前チームが夏の大会で支部予選敗退、南北海道大会へ進めないという悔しさが、選手達に勝利・優勝をめざす強い意志を、そして選抜大会への強い想いを持たせたことと思います。その強い想いは決勝戦で砕かれてしまいましたが、選手たちはその時の悔しい気持ちをオフの期間忘れることなく厳しい練習に耐え、がんばり続けました。

翌春、長い冬季練習から明けてシーズンインすると、チームは一回りもふたまわりも大きく成長していました。春季札幌支部大会は3試合すべてをコールドゲームで勝ち、北海道大会では決勝戦、駒大苫小牧に14—5で勝ち、3年ぶり11回目の優勝を果たしました。

夏の甲子園出場に向けての道のりも決して楽なものではありませんでしたが、南北海道大会決勝で、北照高校に3—0で競り勝ち、第97回全国高等学校野球選手権大会への出場を決めることができました。夏の甲子園出場は4年ぶり36度目。長野県の松商学園高校を抜き、全国最多の出場回数ということになりました。

また高校野球１００年という記念すべき大会に出場することで先輩の方々の偉業にもスポットが当たり、私自身ＯＢとして、また指導者としてあらためて伝統の重さを痛感いたしました。

高校野球１００年の大会、そしてその記念すべき大会の開幕試合という素晴らしい舞台で臨んだ試合では、鹿児島実業と対戦。中盤までは点の取り合う展開でしたが５回に一挙10点を奪われ、４―18で敗れてしまい皆様のご期待に応えることはできませんでした。

現在は３年生が引退し１、２年生部員の新チームで甲子園をめざして練習に励む日々です。甲子園でさらに勝ち進めるチームを作り皆様からのご支援の恩返しができればと思っております。

夏の甲子園出場における皆様のご支援、温かなご声援に重ねて感謝を申し上げ、お礼の言葉といたします。本当にありがとうございました。今後とも北海高校野球部への変わらぬご声援をよろしくお願い申し上げます。

陸上競技部

６月に札幌で行われたインターハイ全道大会では多くの選手が上位入賞し24名が和歌山県で行われた全国大会に出場することができました。

全国大会という大舞台で選手達はベストタイムを次々と更新し、特に３年福田健太は８００ｍで北海道ベストタイムを更新する等、各選手とも北海道の上位を制する勢いを見せていました。チーム一丸となって協力し合い日頃の努力の成果を存分に発揮することができ、各自の限界に果敢に挑戦する力強さを感じさせた大会となり、多くの事を得ることができました。

また、秋に行われた新人戦でも夏の全国大会の経験を生かし女子１６００ｍリレーで全道優勝することができました。来年度のインターハイ入賞を目指して今後も日々練習と強靭なチーム作りにより一層力を入れて頑張っていきたいと思います。

男子テニス部

部員22名、マネージャー２名でほぼ毎日活動しています。団体戦での全道制覇を最大の目標とし、顧問・生徒一丸となって厳しい練習をしています。今年度は８月に大阪で行われた全日本ジュニアに２年生の伊藤昴が出場し、共学になって初の全国大会出場を果たし、顧問・選手共に大変貴重な経験をすることができました。

インターハイ全道大会では惜しくも旭川実業に敗れ２回戦敗退。新チームになり、10月に旭川市で行われた選抜全道に出場しましたが、準々決勝で尚志学園に敗れベスト８という結果で大会を終えました。

まだまだ越えるべき壁は高いですが、今後も悲願の団体戦での全国大会出場を目指し、日々努力を続けます。

男子バドミントン部

我々の部は、生徒達で決めた目標である『全道優勝して全国大会出場』を達成するために、日々の練習に取り組み、日常生活もけじめのある生活と感謝の心を持って生活してきた。

今年度の高体連では、全道ベスト８という結果で、目標を達成することができなかった。新チームとなってからは、札幌市で開催された全国私学大会に出場し、48チーム中36位という結果を残すことができた。これは、北海の全国私学大会最高順位である。これからも全国で活躍するチームに成長していきたい。

アイスホッケー部

８月５日から苫小牧市で行われた全国選抜大会に出場し、ベスト８という結果でした。１回戦は岡山・香川県選抜という連合チームに14対０、２回戦は福岡ブレイカーズを相手に７対０で勝利しました。準々決勝は、昨年度準優勝校の駒大苫小牧高校を相手に、第１Ｐは２対０と先制し試合を優位に進めましたが、中盤以降は勝負強さを見せ

つけられ、3対4で敗れました。しかし、強豪校相手に技術、体力共に互角の勝負をすることができ、今後につながるゲームと内容となりました。今後はこの大会優勝校である白樺学園をはじめ、武修館や駒大苫小牧・清水など各地区の上位校をしのぐチーム力をつけ、帯広で開催される全道大会、岩手県盛岡市で行われるインターハイに向けて準備していきます。応援よろしくお願いします。

柔道部

今年はインターハイ全道大会で男子2名、女子3名。全日本ジュニア北海道大会で女子3名。国民体育大会北海道予選会で男子2名、女子3名が優勝し全国大会出場を決めました。インターハイ全国大会では個人戦で3位入賞し全国優勝まであと一歩というところまで勝ち進むことができました。団体戦においても前年度優勝の強豪校を破る活躍をして注目をあびました。今後も全道、全国大会優勝を目指し日々精進していきたいと思います。

弁論部

滋賀県大津市で7月28日から30日にわたって開催された、第39回全国高等学校総合文化祭弁論部門第61回文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会に3年中西拓馬が出場。生徒会活動を通じて学んだ「理想的な組織の在り方」から、高校生のうちから労働について考える必要性を訴える弁論を披露。惜しくも入賞を逃したが、10月に開催された全道大会にて2年中川梨花が課題の部最優秀賞受賞で、来年度広島県三次市で行われる総文祭出場が決定。8年振りの全国制覇を狙う。

写真部

滋賀県で開催された第39回全国総合文化祭に伊藤翼、河野真由（ともに3年）の2名（全道10名中）が出場し、伊藤翼の「生活を支える人たち」が全国3位に相当する奨励賞を受賞した。この作品は、東川美術館に永久保存されることになった。また、9月の高文連支部大会では13名の部員全員が入賞・入選を果たし、10月に苫小牧市で開催された第39回全道高文連写真展においては、全道の上位10位以内に入った小倉佑斗（1年）の「大通公園」が、来年度広島県広島市で開催される第40回全国総合文化祭への出場を決めた。これにより本校の全国大会出場は、15年連続17回目と記録を更新したことになった。

運動部の活動状況

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は部員48名で、全道大会4強を目指し「質実剛健」の精神で練習に励んでいます。平成26年度は全道選抜大会において、全道ベスト8の成績を残し、また平成27年度の高体連札幌地区予選では4位に入賞することができました。これからも周囲の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、チーム一丸となって頑張っていきますので、応援をよろしくお願いします。

女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は、2月に行われた新人戦で全道大会（旭川）に出場、函大柏稜、北見北斗を破り、ベスト8となりました。しかし、春季大会ではシードを落とし、IH、選抜大会とも札幌支部予選で敗退しています。現在チームは、新人戦でシードを取戻し、2月に帯広で行われる全道大会に出場することを目指して練習に励んでいます。再び全道大会の舞台で北海らしいプレーを発揮できるよう、日々一生懸命努力していきます。

男子バレーボール部

9月に行われた春高札幌地区予選を勝ち抜き、11月に北海きたえーるで行われる春高北海道大会に出場します。2年生は大会と修学旅行が重なることになりましたが、修学旅行をあきらめて、春高に出ることを決断しました。インターハイで勝ち切れなかった悔しさを忘れずに残りの時間を過ごし、そして、今度こそはチームの目標である全道ベスト4を達成したいと思います。

女子バレーボール部

女子バレーボール部は、3年生が引退後、部員11名で全道大会出場を目指し練習に取り組んできました。昨年度の全道大会出場は叶いませんでしたが、今後も同じ目標を持って活動し続けます。

平成27年度結果

インターハイ札幌支部予選
予選
石狩南　0―2
札幌丘珠　2―0
決勝トーナメント
札幌東豊　2―0
札幌山の手0―2
選手権札幌支部予選
予選
札幌西　1―2
石狩翔陽　0―2

卓球部

卓球部は現在、男子9名女子1名の計10名で活動しています。人数は少ないですが、一人一人が自覚を持ち、考えた練習を心掛け、札幌支部優勝、全道優勝を目標にやっています。インターハイでは、団体戦、ダブルスでは思うような結果が出ませんでしたが、シングルスでは、3年生の鈴木がベスト8に入りました。今後は、秋季大会、選抜大会に向けて、目標を達成できるように、日々の練習に取り組んでいきます。

女子テニス部

インターハイ支部予選の団体戦は1、2回戦と勝ち進み、ベスト8と全道大会出場を賭けて、西高と戦いました。良い内容の試合でしたが、1対2で敗退しました。なお、個人ダブルスは道大会の出場を果たしました。

6月から新チームとして始動し、「道大会団体戦出場」を目標に、15名の部員で日々練習に取り組んできました。

秋季支部大会では、団体戦が力を発揮できずに、初戦敗退に終わりました。個人ダブルスについては、3回戦でシード選手と戦い、勝てば道大会出場でしたが、逆転され悔しい負け方をしました。

この大会の悔しさを忘れずに、来年のインターハイの道大会に団体戦で出場できるよう、頑張って参りますので、応援をよろしくお願いします。

女子バドミントン部

女子バドミントン部は、3年生11名、2年生6名、1年生10名の部員が所属し、日々全道大会進出に向けて練習をしています。今年度は高体連札幌支部大会において創部以来初めてベスト4となり、2年連続で全道大会に出場しました。全道大会では、残念ながら1回戦で敗退しましたが、選手たちは自分の力を出し切ったと思います。また、今年度の高体連全道大会では、校友会オホーツク支部の皆様より激励とお志をいただきました。大変ありがとうございました。今後も、選抜大会や次年度の高体連でも全道上位をめざし、がんばっていきたいと思います。

サッカー部

1年間の活動記録

春季大会
シード権獲得
インターハイ札幌支部予選　準優勝
インターハイ北海道大会　ベスト8
札幌ブロッリーグ1部　第4位
北海道プリンスリーグ参入戦　2位
2016北海道プリンスリーグ昇格
選手権大会札幌支部予選　代表権獲得
選手権大会北海道大会　準優勝

北海高校サッカー部は、「素晴らしい選手である前に、素晴らしい人間であれ」を基本精神として、この1年間、チーム一丸で頑張ってきました。

剣道部

女子は昨年度の新人戦全道3位獲得を糧に、高体連支部大会ではシード3位に入賞しました。男子も女子の頑張りに刺激されシード4位を獲得しました。また、個人でも男子1名が5位（ブロック優勝）に入賞しました。しかしながら、高体連全道大会では、女子はよもやの予選リーグ敗退、男子は予選リーグは突破したものの決勝トーナメント1回戦で敗れました。

弓道部

今年は、男子11名、女子6名の新入部員を迎え、総勢55名になり、今までにない大所帯になりました。戦績は、高体連では女子団体が全道大会進出したものの予選敗退。国体予選では、2年生女子笠谷が全道大会進出。新人戦は、男女4名が個人戦で南北海道大会に進出、2年生男子中嶋が2位に入り、全国選抜大会に出場を決めています。ひとりひとりの技術はまだまだですが、毎日充実したクラブ活動を続けており、今後の成長が楽しみなところです。

新体操部

高体連全道大会では、個人戦2位・3年生の伊藤美弥、3位・1年生の芳賀麻悠子、団体戦では、1位との差が0・6の接戦で優勝を逃し、インターハイに行くことが出来ませんでした。全国に出場出来るのは、個人戦1人、団体戦でも1チームの狭き門です。来年度は、技術力も精神力も更にアップし、努力していきたいと思います。選手の頑張りはもちろん、ご父母の皆さんの応援、卒業生の協力を頂きながら必ず全国の切符を勝ち取ります。今後とも北海新体操部の応援を宜しくお願い致します。

軟式野球部

本年度の第60回全国高等学校軟式野球選手権大会札幌支部予選では、1回戦で北嶺高校と対戦し、6対2で勝利しましたが、代表決定戦では尚志学園と対戦し、0対3で敗退しました。敗れはしましたが、内容的に互角の試合ができたことは、大きな自信になったと思います。現在、部員は少ないですが、選手たちは伝統を背負い、誇りを持って、真摯な姿勢で練習に取り組んでいます。今後ともご声援をお願いいたします。

水泳同好会

現在、男子3名・女子3名の計6名で、普段は各自が校外のスイミングクラブに所属して練習に励み、各種大会に出場しています。北海高校としての出場はインターハイのみですが、常に北海高校の選手であることに誇りを持って全力で競技に臨んでいます。今年度は女子2名が全道大会に出場しました。来年度は人数を揃えてリレーにも挑戦したいと考え、校内でのミーティングを増やし、より前向きに活動しています。今後とも応援よろしくお願いします。

文化部の活動状況

新聞局　新聞局は今春1年生女子7名をあらたに加え、10月現在26名（3年生7名、2年生12名、1年生7名）。

今年も4月に新入生向け歓迎冊子「北海タイムズ」を発行。7月の第191号では、「130周年」「防災」「SNS」など身近な話題を切り口に特集を組んだ。特に「SNS」については、ネット依存の問題に詳しい旭川赤十字病院の小児科医を訪ねて取材をすることが出来た。

さらに10月1日から3日まで函館で行われた全道高校新聞研究大会にも参加。全道新聞コンクールでは優秀賞を受賞した。今後も局員一丸となって学校生活を応援する紙面作りに努めていきたい。

放送局　私たち放送局は、10月14日から10月16日に江別市民会館で行われた、高文連放送コンテスト石狩大会に出場しました。

各部門に出場した局員は、日々練習してきたものを本番で充分に発揮できていました。また、他校の作品や発表を見たことで、各個人の課題を見つけることができたと思います。今後は次の大会に向けて、日常活動だけでなく日々技術を向上させていけるよう、努力していきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

吹奏楽局　今年度1年生16名、2年生7名、3年生22名の45名で活動しました。第12回定期演奏会をわくわくホリデーホールで開催しました。また、学校祭、とよひらフラワーコンサート、吹奏楽コンクールと活動しました。

文芸部　文芸部は今年、3年生が卒業した時点で、新3年生は1人でした。幸い、2年生1人、1年生2人の新入部員を得て、4人の部員で活動しています。私が顧問になって初めてのことですが、部員は全員女子です。

石狩支部大会には、詩部門、小説部門、部誌部門にエントリーしましたが、入賞には至らず、部誌は全道大会への推薦を受けました。

全道大会は大沼、部誌部門のみ参加し、なんとか銀賞を受賞しました。

美術部　10月に第57回学生美術全道展と第27回有島青少年絵画展が開催されました。学生美術全道展では、美術部から9名が出品し、全員入選し、版画部門では、山田莉奈（3年）が北海道新聞社賞を、美術選択生も2名奨励賞を受賞しました。有島青少年絵画展でも、多数の入選者がありました。

来年3月15日（火）から第106回どんぐり会展を大丸藤井セントラルで開催します。

顧問　川本　泰博

書道部　本年度は、高文連全道大会が稚内市で開催され優秀賞に2年の台丸谷希美が選出されました。

今後、さらに、展覧会への出品や、3回目を迎える校外展（樸星展）を3月に開催する予定でいます。制作者にとって見ていただくことは最大の励みとなります。ご高覧のほどお願い申し上げます。

ボランティア部　10月16日に高文連石狩支部ボランティア研究大会に参加した。今年度は当番校として大会運営に関わり、名札作成やプログラム綴じ込みなど事前準備を行なったり、当日は受付や司会の任務に携わった。午前は東日本大震災の影響で札幌に避難してきた子ども達に学習と遊びの支援を行なっている大学生サークルの方々から講演をいただいた。午後は各参加校より日頃の活動内容についてプレゼンテーションがあり、その後、自分たちがボランティア活動で大切にしている事は何か、グループで意見交換をした。短い時間ではあったが他校と交流ができ、有意義な1日となった。

コンピュータ部　将来、コンピュータ関係の各種検定試験に合格できるようにタッチタイピングを基礎から始め、ワープロ、表計算を中心に各自学んでいる。また、各自得意な分野のソフト（3DCG、ゲーム作成ソフト、動画編集ソフト）を購入して、活動している。今後はそれらのスキルを生かして、各種大会に参加予定である。現在の部員は3年生が6名、1年生が12名である。部員の中には兼部している人もおり、週3日程度の活動を行っている。

演劇部　演劇部は、3年生が7月の北海祭公演をもって引退し、現在は、2年生3名、1年生1名の計4名で活動しています。

高文連石狩支部大会には『あなたも…ですか』という劇で参加しましたが、残念ながら努力賞という結果でした。しかし、演出などの面で多くの課題を発見でき、成長につながる良い機会となりました。

合唱部　今年の3月に合唱部は第2回目となる定期演奏会を開催しました。時計台2階の歴史あるホールで、日頃お世話になっている先生方や卒業生、友人や家族への感謝の気持ちを込めて「サウンド・オブ・ミュージック」等を歌いました。又、6月にはLCI短期留学生達と「ふるさと」を合唱し、10月の芸術鑑賞ではゴスペルグループ「ダックス」と一緒に歌わせていただきました。世代や国境を超えて様々な人達との間に生まれるこのような絆を、これからも大切にして活動していきたいです。

平成27年度　プロ野球ドラフト会議結果

埼玉西武ライオンズ　2位指名

川越誠司君

（高校63期卒・北海学園大学4年生）

おめでとうございます。

校友会一同今後の活躍をお祈りします。

校友の動向

部活動での経験から今の私へ

一般社団法人　北海道再生可能エネルギー振興機構
第57期　田原　沙弥香
（旧姓：藤原）

［略歴］
高校時代は吹奏楽局に所属し、第１回目の定期演奏会を開催。現在、北海道再生可能エネルギー振興機構にて再生可能エネルギーの普及に従事する。

高校時代は、吹奏楽局に所属。元々音楽は好きでしたが、担当は全く経験のないパーカッション（打楽器）に興味をもち、先輩や同期に一から教えてもらい始めました。３年生の時には副部長を務め、第１回目の定期演奏会を部員一丸となって立ち上げました。演奏会当日まで全てが初めての経験の中手探りでしたが、不安な時でも部員の目指す方向が同じ事で、準備は充実し、開催後にはやりきった達成感をみんなで感じる事が出来た事を覚えています。高校卒業後は、環境問題について大学・大学院で学んだ後、にしん御殿小樽貴賓館（旧青山別邸）を経て現在は北海道再生可能エネルギー振興機構で再生可能エネルギーの普及に携わっています。化石燃料に頼るのではなく、北海道に豊富にある資源を活かしたエネルギー循環を地域に広げたいと取り組んでいます。その為には法律、資金、地域の合意など多様な知識が必要で仕事は多岐にわたり、まだまだ勉強途中ですが今もチャレンジし続けているのはあの定期演奏会を立ち上げていく感覚と達成感が自分の中にあるのではと思います。

生徒会活動を通して

株式会社セブン-イレブン・ジャパン 札幌地区事務所 会計担当
第59期　音道　まりん

［略歴］
高校時代は、生徒会と合唱部に所属。酪農学園大学へ進学し、同大学大学院修士課程を修了。現在は札幌市内で小売業の会計担当者として勤務。

北海高校への進学を決めた背景には、高校30期卒業の父の存在がありました。父は当時のことをいつも楽しそうに話してくれました。良き伝統を継ぐ父の母校に魅力を感じ、入学を決めました。

高校時代は、生徒会活動に力を入れていました。好奇心が非常に強く、何かに挑戦したいという思いから立候補した記憶があります。正直、喜びよりも苦労した記憶の方が多く残っています（笑）。物事がうまく回らなかったり、人を動かせなかったりと、先頭に立って物事を進めることの大変さを痛感しました。問題にぶつかる度に、メンバーと改善案を考え、乗り越えていくことで、自分への自信と成長に繋がっていたと思います。複数の主張がぶつかることも多々あり、何をどうすれば一番良い状況が作りだせるのか、相手の立場に立って考え、発言することを学びました。

現在は会計担当者として勤務していますが、将来的には人を育てる立場の人間になりたいと考えています。高校生活で得た、相手の立場に立って考える力、自ら積極的に行動する力を活かし、今後の成長に繋げていけるよう邁進します。

平成27年4月29日　瑞宝小綬章　教育功労
杉本和紀　先生

社会科教師として赴任以来本校に42年間勤務された。１９９５年（平成７年度）から校長に就任。１９９９年（平成11年）に男女共学への移行を実現させた。

「受章は教え子や同僚、恩師、家族の支えがあったから」と感謝をされていた。

杉本元校長は、１９６５年（昭和40年）に平成27年４月29日に元北海高等学校学校長杉本和紀先生が瑞宝小綬章を受章された。

叙勲受章者

平成27年11月3日
瑞宝単光章
長　光　雄（高校16期）

受章おめでとうございます

平成27年度　北海道社会貢献賞受賞

平成27年度　北海道社会貢献賞（私学教育功績）
平成27年10月21日
山崎省一　校長

本校の山崎省一校長が、北海道社会貢献賞を受賞されました。
受賞おめでとうございます。

新任あいさつ

健児たちとともに歩む
淺井史緒先生

今年度より、国語の専任教諭として勤務させていただくことになりました。すでに非常勤講師や嘱託教諭として5年間お世話になっておりましたが、130周年を迎えたこの栄えある年に、縁あって北海高校のお仲間に入れましたことを大変嬉しく存じます。

出身は新潟ですが、北海道大学（文学部・中国哲学）に入学以来、人生の半分ほどを北海道で過ごしております。新潟高校や北大でますらを的バンカラ気風を育て上げられた私には、北海の校風は肌なじみがよく、北海健児たちもいとしく感じるものであります。微力ではありますが、若き健児たちのために努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

生徒の皆さんへ。常にFIGHTING BULL!!
近藤剛先生

TSUYOSHI KONDO

猛牛のように燃えたぎる、熱い思いが全てを突き動かす。目標を持ち、決して妥協することなく、それに向かって一直線に進むべきである。細かいことは気にせず、進んでしまえ。何としても達成しなければならない。しつこくしぶとく、決して曲げることなく、努力するのみ。達成することである。

目指すは唯一絶対無二。悲しいかな人間は相対的に物事を見てしまいがちであるが、それを超えるべきである。目指すは唯一絶対無二、孤高の存在、を目指そう。

常に全力。今のこの一瞬に全てを賭けて、全力で当たるべきである。後悔を味わいたくなければ、とにかく全力あるのみである。

頑張れ、北海！

支部・同期会の動き

東京支部 総会・懇親会『絆と友愛』

平成27年10月3日（土）16時より新宿にて女子5名を含む80名の校友にお集まり頂き盛大に開催いたしました。

本校より山崎校長、北海校校友会より二瓶副会長、野村副会長、松岡広報名簿部長、佐藤組織強化部副部長、元教諭 横山英紀先生をお迎えして皆様からご挨拶を頂きました。

33期中村幹事の開催の挨拶で、総会・懇親会がスタート致しました。

北海校校友会 金井新会長より、東京支部への温かいビデオレターを頂きました。

遠く故郷を離れ奮闘中の猛者の皆様が裏の藪より出席頂き、全員が高校生に戻って過ごした楽しい3時間でありました。

最後に校歌を斉唱して集合写真を撮り「また、来年会いましょう」の言葉で盛況の内に無事閉会致しました。

来年度の総会・懇親会に向けて東京支部幹事一同、今後も活動して参りますので皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

東京支部　幹事一同

西日本支部

去る平成27年6月27日（土）12時00分より、大阪ニュー・トーキョーにて北海校校友会西日本支部総会・懇親会が開催されました。北海校校友会本部から金井会長、二瓶副会長、野村副会長、松岡広報・名簿部長、東京支部からは柳東京支部長が出席しました。

総会は校友会の新体制、各支部の近況について話し合われ、また懇親会は学生時代のレジェンドの方々の思い出話に花が咲き、あっという間に予定時間が経過し、別れを惜しみつつ、またの日の再会を誓い合い、最後は校歌斉唱し、柳東京支部長の一本締めで盛況の内に閉会となりました。

道南支部

平成26年度道南支部総会懇親会を11月15日（土）湯川イマジンホテル&リゾートで開催いたしました。当日はご多忙のところ校友会　遠藤会長、金井組織強化部長、佐藤副部長、野村副部長代行にご出席いただき、校友会の近況、活動状況等についてお話を頂きました。道南支部会員も高2期から高57期までの出席をいただき、校歌&応援歌をBGMに、懇親を大いに深めることが出来ました。

今年も11月14日（土）花びしホテルに於いて開催いたします。今後も道南支部役員及び会員全員で、頑張っていきます。宜しくお願いいたします。

末文になりますが、17年間の長きにわたり道南支部支部長として、道南支部を盛り立てて、頂きました瀧本　洋一先輩のご功労に感謝し敬意を表したいと思います。瀧本先輩には今後もご指導いただきたいと思います。

支部長　室田　幸治

旭川支部

校友会旭川支部の総会を9月5日、旭川の天金本店で20名の参加で開催致しました。外崎支部長の挨拶のあと金井新校友会会長が学校・校友会に対しての熱い決意と会員への協力をお願いされ、山崎校長からは学校の近況報告や諸先輩方の動向・功績等のお話を頂きました。

菊地副支部長の乾杯のあと組織強化部長・野村様より更なる校友会への協力のお願いがあり来年度総会実行委員萩原様より各支部の参加で成功させたいとの要請がありました。

高屋敷室蘭支部長の近況報告の後、今回夏の甲子園で大会第1号のホームランを打った、鎌仲主将が旭川出身のご縁で父母の会会長の鎌仲恭孝様も参加頂き多くの寄付金や熱い声援に対し感謝の気持ちを述べられました。その後、恒例の「北海ダービー」で盛り上がり、最後に校歌斉唱で閉会し2次会に向かいました。皆様の協力に感謝致します。

旭川支部　幹事　大物　久夫

室蘭支部 13年振りの再開

平成26年12月17日に高57期の瀬川隼郎君（室蘭シャークス）のプロ野球の日ハム入りが決定したので、室蘭支部の再開と激励会を急遽開催。当日は生憎の悪天候のため遠藤会長、山崎校長他が欠席となりましたが、金井組織部長と野村組織部長代行のお二人がJRが一部開通になり、駆けつけてくれました。出席は高7期の猪狩庄市先輩、高12期の酒井了先輩、同期の高13期宮沢日出夫さんと前日に室蘭入りの星さん始め、20名の参加で無事開催の運びとなりました。開催前に柳東京支部長、瀧本道南支部長、高岡釧根支部長、平田十勝支部長、外崎旭川支部長に瀬川君の激励電報をお願いしており釧根支部からは桂事務局長の計らいで花束を送っていただき当日電文のご披露と花束を高58期の十島君から瀬川君に贈呈してもらいました。瀬川君のお陰で室蘭支部の再開をすることが出来ました。祝電等をいただいた各支部長に感謝申し上げます。

室蘭支部長　高屋敷

（写真）
上段左から、高屋敷（健）、渡会、石川、岡崎、五十嵐、大楽、野村
中段左から、十島、中村、田中、堀口、　斎藤、田辺、宮澤
下段左から、星、瀬川、猪狩、酒井、高屋敷、金井

教職員支部

本支部は、小・中・高・大学・専門学校・特別支援学校で勤務される本校OB／OGの教職員と北海の現旧職員で構成される支部です。1月に開催された総会・研修会にも多方面から多くの会員の方々にお集まりいただき、盛大に開催すること

ができました。
本支部は、発足当初より「研修会」を継続しています。４回目の研修会では、本校ＯＢで現神奈川大学附属中学・高等学校長 鈴木義嗣 氏より「私の中の北海の校風とスピリッツ」というタイトルで、教師生活を支えている恩師との出会いや人間教育の場としての学校、教師のあり方などを先生の経験も含めてご講演いただきました。１３０年の節目の年としてさらに北海が発展すべく教育という重要な役割を再認識する素晴らしい研修となりました。
懇親会においても、北海という繋がりから、若手教師と先輩教師のふれあいの場を感じることができました。
今年度の総会・研修会においても多くの皆様にご参加いただき、母校でお会いできることを心から楽しみにしています。

教職員支部　事務局
油谷　哲郎

平成27年度 北海校校友会 十勝支部総会・懇親会

平成27年度北海校校友会十勝支部　総会・懇親会を５月９日（土）グランテラス帯広（旧帯広東急イン）にて開催いたしました。
母校から、遠藤校友会会長、山崎校長先生、金井組織強化部長、同じく佐藤副部長夫妻、旭川支部大物幹事長、今年度の「校友の集い」実行委員長の野村幹事長にご出席いただきました。また、偶然に帯広に遊びにきていた高29期の野村安美さん親子の飛び入り参加もあり、総勢19名が集いました。
当日は、組織強化部金井部長、同じく佐藤副部長より日本酒の差し入れがあり、なかなか手に入らない銘酒とあって、乾杯直後より早速日本酒で勢いづき恒例の自己紹介の時間には参加者皆さんがすっかり出来上がっている状態。
司会進行役の柳沢幹事長（高27期）も司会そっちのけでマイクパフォーマンスで大暴走。
最後に全員で校歌斉唱、強化部佐藤副部長にエールで締めていただき、今年度の十勝支部総会・懇親会を無事に終了することができました。

幹事　小林　英人
（高28期）

第28回 江別支部総会及び懇親会開催

去る６月20日（土）毎年行われている我々の先輩が経営されているレストラン「あおい」にて開催、今年は本部から金井新会長、野村副会長、松岡広報・名簿部長の３名の方々に大変お忙しい所ご出席頂き総勢23名の宴会となりました。
最初に我々の支部の亡くなられた方々へ黙祷をし、そして26年度の決算・27年度予算報告等が承認され、又、現在の高校の状況等が報告されて総会は終了、そして楽しい懇親会に入り、一人ひとりの自己紹介（本部含む全員）や本部からのお話やらで雰囲気が一挙に盛り上がり、そして毎年恒例のビンゴゲーム（景品は全員に当たる）や余った景品をジャンケン大会等で最高潮に盛り上がり、最後は我々支部の応援団に所属していた会員がエールをきり応援歌・校歌を斉唱し、２時間半の予定があっという間に終わり非常に楽しい1日となりました。本部の方々にも大変喜んで頂き、又、来年再会しましょうと散会となりました。
本部の方々には御出席頂き本当に有難う御座いました。来年も是非参加して盛り上げてください。

支部長　長　光雄
（高16期）

13年ぶりに 懇親会 オホーツク支部

北海校校友会オホーツク支部は、管内が広く（３市14町１村）会員も管内に在住しています。スタート時の会員数（北見市在住）は35名と聞いていますが、現在は管内で93名となりました。平成14年にＯＢの集いを開催しましたがそれ以降の活動が停滞していました。
今回、平成27年２月７日（土）に我々の会員が経営している「居酒屋笑い屋総本店」で懇親会を開催しました。校歌斉唱の後、上野支部長の挨拶、活動報告等がありました。その後、懇親会に入り一人一人の自己紹介を行い和やかな時間をすごしました。今回初めて女性２名の参加があり、懇談の場も華やいだ雰囲気となり、世代間・異業種の交流の場として和気藹々と楽しい時間を共有することができました。また、平成27年の２月に支部名もオホーツク支部に変更し、新たにスタートをしました。今後は、北海校の長い歴史と伝統に培われた精神を繋いで行きたいと思います。

幹事　吉田　幸司

卒業65周年記念会
〈高校2期〉

昭和19年、戦時中に旧制中学に入学以来満71年、昭和25年新制高校卒業以来、65周年を迎えました。栄養失調と空腹に耐えながら、勤労奉仕にも我慢しました。

戦後の混乱から学園の民主的再建に努めた当時を回顧し、今日の繁栄に感激一入。

関東を中心に本州に在住した同期も鬼籍入りも含め、徐々に減少して、今回の3月26日開催の65周年記念には下記の10名が参加しました。

場所は、日比谷公園前の、ニッカウイスキー専門レストラン「ウスケボー」で明治時代の鹿鳴館跡です。

終戦後、兵舎使用で、荒廃した校舎で自治会を発足させた初代議長の浜口武人君、2代目中村次雄君、南極越冬隊参加の吉田光雄君、広島から参加の山谷洋二君、三重県の矢野君等80数歳の全員が元気一杯でした。5年後のオリンピック観戦を夢見て、色紙にサインして再会を約束しました。

母校130年の歴史の丁度半分を過ごした事に誇りを持ち、今後の母校の一層の発展を心から祈ります。

（参加者）浜口武人、本多恵二、矢野昭太郎、吉田光雄、上野浩邦、松田忠雄、小淵忠雄、山谷洋二、千田浩三、中村次雄（文責）

僕は北海の3年生 あれから早や57年
〈高校10期〉

平成26年11月6日（木）札幌ガーデンパレスで3回目の同期会を開催、来賓として松竹谷先生をお招きし、初めて参加した工藤正君、平賀典明君ら22人が出席。

今なお会社勤務現役で活躍中の笹林政喜君の司会により、本州製麺会社の北海道地域統括者である幹事長宮坂明由君からの開会宣言、そして昨年より10人多い、66人の物故者に対する黙祷の後、来賓としてご臨席いただいた松竹谷智先生からは「洞爺丸台風の昭和29年北海校に奉職してから、1年半の病気療養での休職、各種運動部の部長時代の逸話、今だから話せる話等」ユーモアたっぷりのお話でした。

続いて酒は飲めないが公職多々で公式の場には馴れている果樹園経営の武市芳清会長の挨拶、相変わらず氷屋の橋さんで会社発展のため知恵を絞っている橋辰男君の乾杯で開宴。

ほろ酔いになったところで、恒例の参加者全員から町内会活動、趣味等様々な生活の近況報告。

次回の新幹事として平賀典明君、室谷幹男君、横山弘美君、吉田伸二君の4名を選出。

締めの乾杯はホッケー部所属で応援団員を務め、老いても豪快さを維持している印刷会社経営の岡田武義君。といった流れの懐かしさあふれる同期会であった。

なお、遠く東京で活動のホクテン会（高校10期）も5月に開催されたとの知らせを聞き、一層の親近感を増す思いである。

出席者の面々

※印は今回の持ち回り幹事

（来賓）松竹谷智先生
池田政照　岡田武義
工藤　正　小西　昭
佐伯元規　※笹林政喜
※神　政憲　住山大二
※武市芳清　※武田幸晃
土屋亮二　橋　辰男
平賀典明　前田量平
三ツ野庄治※宮坂明由
※八巻尚俱　※横山　仁
横山弘美　吉田伸二
米谷　実
（幹事長　宮坂明由）

ホクテン会

5月23日、今年も「ホクテン会」の集いを新宿で開催しました。昨年11月、地元札幌で開催された第3回同期会（横山幹事さん）から当時の様子をビデオや写真に加えて名簿（参加者と全クラス）まで送って戴き、当ホクテン会仲間に〝豊平時代〟を一層思い起こすに有り余る話題を頂戴することができました。誠にありがとうございました。

札幌の同期会全員の写真を見て、みんな一様に「この人はだれだ!」から始まって、武市団長には当時の猛者振りが見えない（すっかり好々爺?）、佐伯は中距離だった?平賀とは1年のとき一緒だった、横山とは中・高・大共に一緒、○○は俺以上にワルだった、○○は早飯の常連だった、など回顧談の中に血気盛んだった青春（往時）を呼び起こしてくれた話題満載の同期会でした。ありがとうございました。

松竹谷先生の英語の講義を受けた人が数人いました。眼鏡を掛けた細顔の印象は「あの当時と変わりないナー」と驚嘆の声しきり。さらに合同写真からどっちが年配者か判らないゾ…（笑）

横山幹事さんの数々のご配慮に心よりお礼を申し上げます。どうか地元札幌の同期会が益々充実し発展されますよう願っております。

高校12期の近況

私達高校12期は、昭和35年卒業現在74歳（73歳も）が殆んどで、定年退職後病気を患らう人が多く、平成22年6月卒業50周年をホテルポールスター札幌で盛大に開催出来ました。これが全員に案内する同期会としては最後にしました。しかし其れ以前から幹事会（代表幹事、副代表幹事、1～7組の各クラス幹事9名で構成）で、全員に案内する同期会は5年に1度前記50周年で終わりましたが、全員に案内しないで、札幌市内又は近郊在住者を中心に年3回（2月初旬新年会、7月下旬、12月上旬忘年会）同期会を開催していますが、それは体調不良の人が年々多くなり、又他界した人も多く、年金生活者が殆んどで東京方面等遠方者は所要があって札幌に来るのが精一杯で集まれそうな仲間の顔ぶれは、各クラス幹事か私が概ね把握していますので、都度各クラス幹事から連絡してもらっています。

あれから30数年続いていますが、現職時代はホテルを会場に、退職して数年後から居酒屋に会場を移していますが、いつも25名～30名程度（遠くは旭川から）参加される良き絆深い仲間です。しかし、今年は予期しない思いがけない事もありました。今年正月明けに仲間の奥様が危篤から逝去したため、葬儀等手配の為病院から自宅に帰った時、その我家が火事で焼失中、消防車が消火活動をしていたが、大切な物等は殆んど焼失したとの事。私も後から連絡を受けたが、二重の悲しみ、苦しみに言葉を失いました。同期会をしていかに元気づけるか幹事に早速電話連絡等し、2月3日同期会新年会で参加者から弔意・見舞金を集める事とし全幹事に連絡、又欠席者でも主な人には私から連絡しました。2月3日同期会で10万円集まりましたので、クラス幹事と私が翌日4日、本人と会って手渡しし、激励した次第です。又、春になって納骨後、都合のつく幹事数名と私が仏壇に手を合わせ成仏を祈った次第です。

又、いつも出席していた人が認知症になった為（持病を持っていた為か）毎回の同期会を安くて分かりやすい居酒屋に固定しました。かつ人数は少ないですがゴルフコンペも行っています。

又、年3回の同期会を年2回にしては？との案も出て、皆に意見を其伸したところ、仲間の近況が知りたい、会う事に意義ありが大半をしめたので、これ迄通りとなりました。

この様に我々12期は、いつ会っても和気あいあい、仲間意識、団結力が強く、絆強き良き仲間です。

杉下　道昭

美園会50周年〈高校17期〉

平成26年11月1日、第50回美園会を開催いたしました。

前列右より
若林　重弘（相撲部）
右3番目
田中　正凞
（バスケット部）
右2番目
佐々木三比古
（アイスホッケー部）
右4番目
阿部　陽司（陸上部）
右5番目
溝口　安則（スキー部）
※校友会恵庭支部支部長
右6番目
菅野　仁（野球部）

後列右より
村田　俊夫（スキー部）
右2番目
加藤　修悦（スキー部）
右3番目
三城　伸郎
（スケート部）
※校友会十勝支部副支部長
右4番目
田辺　克彦（スキー部）
右5番目
三浦　陽一（サッカー部）
右上の写真
豊平区美園　豊竜寺　三男
故　宮田　信弘
（陸上ホッケー部）

高26期還暦祝い同期会「我がよき友よ」

10月3日に定山渓温泉1泊2日で開催された26期還暦祝い同期会は参加人数50名で、人数こそ少なかったものの金井君の第10代校友会会長就任祝いも重なって、内容的には大盛り上がりで18時からスタートした宴会は2次会～3次会と進み、飲んで歌って語らって最終的に寝静まったのは翌朝の2時30分でした。また、同日開催のゴルフコンペとキノコ採取ツアーも数日続いた雨天の合間にぽっかりとできた晴天に恵まれ、ゴルフはバスケット部で鍛えた山口君が優勝。キノコ採取ツアーでは、全8クラスの教諭から参加頂いたハッスルこと安井先生が大量のキノコを収穫し、その勢いのまま遅くまで皆とのお酒にも付き合っていただき「10歳ほど若返らせてもらった大変楽しく本当に来てよかった」とおっしゃっていました。我々26期にとっても60歳の節目の祝いを、遠くは関東や道東からの初参加者も含め北海高校の仲間たちと、ともに祝いともに語らい旧交を温め、本当に楽しいひと時でした。名残を惜しみながら、また来年の再会を誓って閉会となりました。

平成27年度 活動経過報告

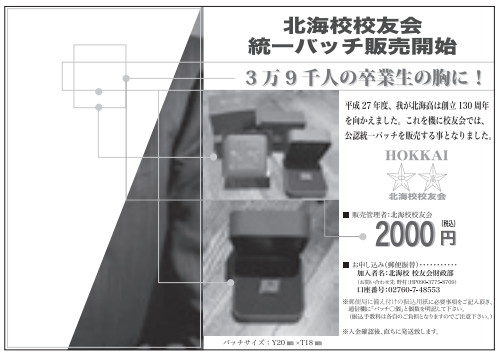
4月9日　北海高等学校入学式
4月22日　広報名簿部会議
4月23日　組織強化部会議
4月24日　財政部会議
4月30日　第1回正副会長・常置部長会議
5月12日　第1回幹事会
5月26日　校友会奨学基金運営委員会会議
5月29日　全国支部長会議　ロイトン札幌
5月29日　校友会総会・校友の集い（当番期　高校35期）
〃　6月10日　第2回正副会長・常置部会議
6月20日　校友会奨学基金奨学生認証式
7月16日　第1回財政検討特別部会会議
7月23日　組織強化部会議
8月26日　財政部会議
9月17日　第2回財政検討特別部会会議
10月22日　広報名簿部会議
10月27日　第3回財政検討特別部会
以降正副会長会議、各常置部会議は随時開催予定
平成28年
2月29日　校友会会員入会式（予定）（高校68期）
3月1日　北海高等学校卒業式（予定）
3月中旬　第2回幹事会（予定）
4月9日　北海高等学校入学式（予定）

寄贈のお礼

牛戸勝三氏（高校16期）より1963年（昭和38年）選抜甲子園大会「準優勝記念メダル」と　池田幸哉氏（高校7期）より菊地精二氏（中学21期）の絵画作品を北海高等学校にご寄贈いただきました。
大変な貴重品を拝受し心より感謝申し上げます。
北海高等学校　校長　山崎　省一

北海高等学校 創立130周年記念展 お礼

平成27年6月12日(火)から6月21日(日)まで、ギャラリー大通美術館で130年の歴史を写真・書籍・トロフィー・絵画を展示し、1,200名以上のご来場をいただき盛大に終了することが出来ました。本当にありがとうございました。



編集後記

本年度、北海高等学校では創立130周年を迎えることができました。130周年記念展では、校友の皆様を含めて関係各位のご協力を得て、無事に開催することができました。ありがとうございました。また、本年5月の総会にて、金井重雄新会長を始めとする新役員が承認され、更なる北海校友会の発展が期待されます。
これからも建学以来の基本精神「質実剛健」「百折不撓」のもと、輝かしい活躍をされています校友の皆様の記事を校友だよりに掲載して行くつもりでございます。何卒、情報のご提供を広報・名簿部会までお願い申し上げます。最後に、本年56号の編集にご協力を頂きました校友の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成27年《高校第67期》校友会クラス幹事

▽1組　定池　雅司　松本　瑞季
▽2組　松本　育也　◎丸山　美咲
▽3組　佐藤　秀吾　飯谷結美華
▽4組　◎三浦　大貴　◎武藤　彩芽
▽5組　齋藤　直輝　井畑　花琳
▽6組　藤井　琢司　澤山　純華
▽7組　林館　勇太　岡村　綾乃
▽8組　角谷　亮太　小松　桃子
▽9組　吉川　亮太　本間　佑香
▽10組　◎千葉　悠太　住友　美咲
▽11組　渡辺　智揮　◎福田　夏子
古川　結生　（◎印代表幹事）